９章　総合問題９

問題

【1】

解答例

《具体的な記述》を用いる：象と１秒の大きさを比較する場合に大半の者は象の方を大きいとみなす。その理由は，象が動物としては大きいのに対して，１秒は時間単位としては小さいからである。(76 字)

別解

《抽象的な記述》を用いる：象と１秒の大きさを比較する場合に大半の者は象の方を大きいとみなす。その理由は，我々は異質の物の大きさを比較する場合に直感的にそれぞれの同質の物の平均的な大きさと関連付けるからだ。(89 字)

解説

第１段落：〔質問〕象と１秒とではどちらが大きいか。

第２段落：〔解答〕大半の者は「象」と答える。

第３段落：〔理由〕

《具体的な記述》

象は動物にしては大きく，１秒は時間間隔にしては小さいから。

《抽象的な記述》

我々は異質の物の大きさを比較する場合に直感的にそれぞれの同質の物の平均的な大きさと関連付けるから。

【指針】

要約する際に論旨の展開〔質問（問題提起）→解答→理由〕を踏まえて，最も重要な理由の部分を中心にまとめる。

全訳

数年前，アメリカへ旅に出かけたが，私は同乗していた客たちに何問か少し奇妙な質問に答えてくれるように頼んで時間を過ごした。第１の質問は「あなたにとって象と１秒とではどちらの方が大きいと思われるか」というものであった。私が言っているのは時間の１秒であって，もう１頭の別の象ではないということを説明してから，今度はどの種の時間の長さを人々は象の大きさに等しいと考えるであろうかということを見出そうと試みた。

１人は物理学者であった。彼が主張したのは，秒というものはその時間に光が進む距離に等しくなければならないということであった —— それが象よりもはるかに大きいことは言うまでもない。しかし大半の他の人々は象が大きいと答えた。もっとも，それと比べるのに適当な時間の選択においては広範な相違が見られたのであったが。

なぜ大半の人々は象が１秒よりも大きいと確信するのであろうか。推定するに，我々は象を我々が知る大半の動物よりも大きいと考え，そしてまた秒は我々が関わる時間間隔の大半よりも小さいと考えるからであろう。我々が言っていることの真意は，象は動物にしては大

きく，１秒は時間にしては小さいということである。このようにして我々は直感的に，似ても似つかない対象を，それぞれの同族の平均的な大きさに関連させることによって比較するのである。

注

ℓ. 4 ◇ a second elephant ＝ another elephant

ℓ. 5 ◇ consider ＋ O ＋ C「O を C だと思う」

○ O ＝ what sort of length of time

○ C ＝ equal to the size of …

ℓ. 6 ◇ physicist ＝ an expert in physics

cf. physician ＝ a doctor

◇ the second

○ the：総称（＝ Generic）／ ℓ. 8 の*the* elephantも同様

ℓ. 7 ◇ that interval of time ＝ a second「その間隔の時間」

ℓ. 9 ◇ it ＝ the elephant

ℓ. 10 ◇ presumably ＝ as may be presumed; probably

＜ pre-〔＝ before〕＋ sume〔＝ take〕「前もって捉える」

ℓ. 12 ◇ which：先行詞はthe time intervals

＜ be concerned *with*

ℓ. 13 ◇ for ～ ＝ considering ～「～の割には」

◇ as A goes ＝ in comparison with the average of A「A としては」

cf. It's cheap, *as these things go.*（この種のものにしては安い。）

ℓ. 14 ◇ instinctively ＜ instinctive ＝ based on instinct rather than thought or training

◇ kin ＝ *one*'s family and relatives「親族；血縁」

＞ akin ＝ similar; related　*cf.* kind ＝ a sort

【2】

解答

（1）ⓓ，ⓕ　（2）ⓓ，ⓒ　（3）ⓕ，ⓐ

（4）ⓐ，ⓒ　（5）ⓓ，ⓐ

解説

（1） I cannot imagine how anyone can expect Sue to be easy to convince. She

ⓐ ⓓ ⓔ ⓖ ⓒ ⓕ ⓑ

never listens to anyone.

「誰であれ，スーは説得しやすいとどうして思えるのか，私には想像もつかない。あの女は誰にも耳をかさないのだ。」

○ expect，convinceはexpects, convincesとなっていないので，anyoneの後には続かないことがわかる。したがって，canが最初にくると考える。

○ expect A to …「A が…することを予期する（期待する）」

○ convince A to …「A を説得して…させる」

○ canの後には意味から考えて，expectが続く。

→ can expect Sue to be easy to convince

O　　C

○ OとCの間には，Sue is easy to convinceが潜在している。convinceの目的語は Sueで，この文型は入試頻出。

cf. She is *hard to please.*（彼女は気難しい。）

This problem is *easy to solve.*（この問題は解きやすい。）

He is *easy to get along with.*（彼は付き合いやすい → 気さくな人だ。）

（2） Look at the sign. It says, 'At no time must this door be left unlocked.'

ⓕ　ⓓ　ⓔ　ⓑ　ⓐ　ⓒ　ⓖ

I wonder what's inside.

「掲示を見なさい。『必ずこのドアは鍵をかけておかなくてはならない』と書いてあります。中に何があるのだろうか。」

○前置詞の後ろには名詞がくるのでAt noには名詞が続くはず。そこでAt no time で始まることがわかる。

「否定の副詞が文頭に出て，文否定の場合は，後続する形は疑問文の形になる。」という絶対的なルールのため，後続の形は，

must this door be left unlocked.

V'　S　V

となる。このルールは頻出なので次の例文で確認しよう。

cf. I little dreamed that she would be a singer.

= *Little*　*did I dream*　that she would be a singer.

否定の副詞　疑問文の語順

（彼女が歌手になるなんて夢にも思わなかった。）

○ leave + O + un___ed は，leave + O + C（O を C の状態に放っておく）の C の部分に un___ed を埋め込んだ形で，「O を…されていない状態に放っておく」も頻出。この形を受け身にすると，～ is left un___ed となり本問に当たる。

○ sign = a lettered sign-board or plate giving the name of a business, or giving information or instructions.

○ say = convey information or instructions

cf. "What does this sign *say*?"

"It *says* 'EMERGENCY EXIT.' "

（「この掲示には何て書いてあるのですか。」「『非常口』と書いてあります。」）

○ lock = fasten（a door, box, etc.）with a lock

＜ lock = a means by which a gate, door, lid etc. may be fastened with a bolt that needs a key to work it

（3） The last thing they wanted was for the newspapers to find out that they

ⓓ　ⓕ　ⓔ　ⓖ　ⓗ　ⓐ　ⓒ　ⓑ

were soon to be married. They had not even told their friends or relatives about it.

「彼らが決して望んでいなかったことは，新聞社が自分たちがもうすぐ結婚するのをつきとめることであった。彼らは，そのことを友人や身内にも話すことさえしていなかったからだ。」

○ the last に「最も～しそうでない」（= the least likely）の意味があることを知っていれば the last thing they wanted was で書き出すことは容易。to find out …が与えられているので，その意味上の主語 for the newspaper を後続させればよい。

○なお，the last ～（that）の形は頻度が高いので次の例文で研究して欲しい。

Ex.The last thing I want to do is（to）swim in the ocean on a cold day.

（寒い日に海で泳ぐなんてとんでもない。）

The last thing I want is（to）catch the flu!

（風邪をひくなんて絶対いやだ！）

The last person that I want to see is John.

（ジョンだけには絶対会いたくない。）

Unhappiness is *the last* I want.

（不幸なんてとんでもない。）

You're *the last person that* I had expected to turn up here.

（あなたは絶対にここに現れて欲しくなかった人だ。）

○これらの例文は，すべて複数のネイティブスピーカーに作成してもらった例文だが，the last ～（that）が使われるのはthatが導く節中にwant，expectなどの希望を表す動詞を含んでいる時に限定される。

○ find out = discover（information）

※ find outは調査・熟考・観察などの結果，事実や実情などを知ることを言う。したがって，落し物などを見つけ出す意味では用いない。

○ relative = a person connected by blood or marriage

※ relativeは親子・兄弟姉妹・夫婦なども含み，日本語の親戚よりも意味が広い点に注意。

（4） No one has any idea why John behaves as he does. He is so unusual.

ⓓ ⓐ ⓕ ⓗ ⓖ ⓒ ⓑ ⓔ

「ジョンがなぜあのように振る舞うのかは誰にもわからない。彼は普通ではない。」

○主語No oneに対する述部動詞はhasかbehavesかのいずれかだが，ideaとのつながりからhas any ideaが続き，any ideaの同格の名詞節としてwhy John behaves as he doesを続ければよい。

○ behaves as he does「いつも振る舞うように振る舞う → あのように振る舞う」

○ behave = act in a certain way

○ unusual = remarkable or interesting because different

（5） Close investigation revealed the store to be owned by terrorists, which
ⓒ ⓓ ⓕ ⓖ ⓗ ⓐ ⓔ ⓑ
shocked the customers.

「綿密な捜査により，その店がテロリストによって所有されていることが明らかになり，客はショックを受けた。」

並べ換え問題では動詞に着目するとうまくいくことが多い。

○ reveal O to be C「O が C であることを示す」を知っていれば，少し性質は違うが *revealed* the store *to be* owned by（terrorist）と並べるのは容易。そして主語の位置に「形容詞＋名詞」のclose investigationを置けばよい。

○ close [klóʊs]（発音注意） ＝（of observation or examination）done in a careful and thorough way

○ investigation ＜ investigate ＝ carry out a systematic inquiry into an incident or allegation so as to establish the truth

○ terrorist ＝ a person who uses violence and intimidation（脅し）in an attempt to achieve political aims

○ which：先行詞は前文の内容

○ shock ＝ cause（someone）to feel surprise and upset

○ customer ＝ a person who buys goods or services from a shop or business

【3】

解答

「**全訳**」下線部参照。

全訳

私は一体どうやってその夜を過ごそうかと思っていた。土曜日。土曜日の夜で，しかも祖母と２人きりであった。

他の２人は出かけてしまっていた ―― 母と姉，２人ともデートの真っ最中。もちろん私も，先に出られたのであったら出かけていただろう。そうすれば祖母のことや，祖母がいつもしていた夜の日課の手助けについて悩まなければならないということもなかったのだろう。私はそっと抜け出して，口論は母と姉にまかせることにしただろう。もちろん２人の間での口論ではなくて，祖母相手の口論である。２人とも夜出かける用意をすでにしてあるので，それぞれが長い闘いを繰り広げるのである。どちらかが負けて，負けた方が土曜の夜に家にいることに対して怒りと失望を感じながら家にとどまることになったものだ。しかもよりによって１週間の中でお楽しみを経験できる唯一の夜に。いや，何か楽しいことを経験できるかもしれないという可能性だけはある夜に。ⓐ実際に望みがかなうことなどめったになかったが，少なくとも出かければその可能性が出てくるわけで，だからその外出するという行為は争っても勝ち取りたいものだったのである。

「どこに行くのかい。」祖母は 15 年間未亡人を続ける 46 歳の実の娘に尋ねたものだった。

「出かけるの。」と母は落ち着いて答え，ⓑ母は 16 歳の時もそうであったのだろうし，また，その後もずっとそうであったのだろうと，私が想像するように，きりりとした表情をしていたものだ。

注

ℓ.1 ◇get through = pass or endure (a difficult experience or period)

ℓ.2 ◇with：「対戦相手」を示すwith (= against)

cf. Bill is always fighting *with* other boys.(ビルはいつも他の少年とケンカをしている。)

ℓ.3 ◇I *would* have gone

○ would：仮定法過去完了の帰結節／条件はℓ.4 の if I had been able to get away first

ℓ.4 ◇get away = escape; leave

◇Then I would not have had to

think about { the old woman
,
going through the routines
└─ that she would fill her evening with

○ going throughの前に，(コンマ) があるので，分詞構文で，動作主が主節のIとわかる。もし，コンマがなければ，going以下はthe old womanにかかる，というのが米国人インフォーマントのコメント。

◇think about ～ = take ～ into account or consideration

○ think ofよりも深刻な内容に用いる。

cf. What do you *think about* the oil crisis? (石油危機についてどう考えますか。)

What do you *think of* my plan? (私の計画についてどう思う？)

ℓ.5 ◇routine = a sequence of actions that is regularly followed

◇she *would* fill her evening with

○ would：《過去の習慣》

◇I *would* have slipped away …

○ would：仮定法過去完了の帰結節／条件はℓ.4 の if I had been able to get away first

○ slip away = escape quietly, quickly or secretly

ℓ.6 ◇leave + O + to …「O に…させておく」

◇argue = exchange conflicting views heatedly

ℓ.7 ◇separately = in a separate manner; singly; one by one

◇running = continuous or recurring

cf. a *running* joke

◇as they (had) prepared for the night out

○このpreparedはhad preparedの代用と考える。

cf. John was punished because he *broke* a window.

(ジョンは窓ガラスを割ったので，罰を受けた。)

ℓ.8 ◇One of them *would* lose and the loser *would* stay at home

○ would：共に《過去の習慣》

◇angry and frustrated at being in on a Saturday night：準補語

○ frustrated at = dissatisfied with ／ at

○ in = present at *one*'s home

ℓ. 9 ◇ the one night of all the week：the（only）one nightと考える。

○ of all（the）～「数ある～の中でよりによって」

cf. I caught cold on Christmas day *of all* days.

（よりによってクリスマスの日に風邪を引いた。）

ℓ. 10 ◇ chance $\boxed{\text{U}}$ = a possibility of something happening

◇ pleasure = sexual gratification

◇ hardly ever = rarely; seldom

cf. He *hardly ever* opens a book.（あいつが本を開くことはまずない。）

※ hardly単体ではscarcely同様，頻度は表せない点に注意。

◇ fulfillment < fulfill = achieve or realize

◇ at least = at（the）least = not less than

ℓ. 11 ◇ brought with it

○ it = the act of going out

○基本的には "carry, bring, take, have ～ with *one*" の形で「携帯している」意味合いを出す用法。

cf. Take an umbrella *with you* just in case.（雨が降るといけないから傘をお持ちなさい。）

Power *carries with it* a responsibility.（権力には責任が伴う。）

Wealth *brings with it* new anxieties.（金を持つと心配だ。）

◇ that = the act of going out

◇ fight for = try very hard to obtain or do

ℓ. 12 ◇ My grandmother *would* demand …

○ would：《過去の習慣》

○ demand A of B = demand A from B

ℓ. 13 ◇ widow = a woman whose husband has died and who has not married again

ℓ. 14 ◇ My mother's reply *would* be calm and she *would* look

○ would：共に《過去の習慣》

○ calm = not nervous, angry or excited

◇

she ① **would** look determined

as　I imagine　she　had done at sixteen, and always ② **would** do.

S　V　　O

always *would do* → do = look determined

◇ determined = having firmness of purpose, resolute

①のwouldは《過去の習慣》

②のwouldは《過去における未来に対する推量》

東京大学の下線部和訳では助動詞の過去形と代名詞がカギとなるので１つ１つ地道に丁寧に英文を読み込んでいくのが得策となることを覚えておこう。

【4】

解答

（1） **d**

（2） それは彼女がその日曜日に吸った20本目か30本目のタバコであったが，彼は数えるのをすでにやめていた

（3） **c**　（4） **b**　（5） **c**　（6）あの雑草は切らずに残しているんだよ

（7） 父親に対する不信感〔父の言葉を疑う気持ち〕　（8）see

（9） 彼は現在を少しも気にする必要はなかった　（10） **c**

解説

（1） as if he was a（　　）

= as if he was a footballer she had seen on the televisionであるから，

a stranger = a footballer she had seen on the televisionが成立する。

（2）「**全訳**」下線部参照。

（3） **a** for all ～「～にもかかわらず」

b for dead「死んだものとして」

c for good「永久に；これを最後に」

d for granted「認められたものとして → 当然のこととして」

（4） 前文に，Typical, he thought.とあり，それを受けて下線部ⓓはマクリーディの心の中を表している描出話法の文である。was always changing her mind; everything; minute to minuteのどの部分をとっても妻の日頃の態度に対するマクリーディのいら立ちが感じられる。（なお，下線の内容については「**全訳**」下線部を参照。）

（5） **a** 「～の見分けがついた」

b 「～を表した」

c 「～と似ていた」

d 「～を尊敬していた」

直前のKaty and the garden had something in common: they were both small and it looked as if they would never be beautiful no matter how hard anyone tried, の部分と，直後のMore's the pity（残念なことに）から考えれば，ケイティは父親似なので，決して美しくなることはない」という内容とわかるので，**c** resembledを選ぶ。

（6）「**全訳**」下線部参照。

（7） この直前の文が，For nine years, she had believed everything he had said.（9年間父の言うことならすべてを信じてきた。）であり，それに対比する内容の下線部ⓖNow she was on a cliff-edge, almost ready to fly off.（彼女は今崖っぷちに立ち，今にも巣立とうとする一歩手前だった。）が続いている。

また，下線部ⓖの直後に，Will it?が続き，これはWill it make me beautiful?を縮約したものであると前後関係からわかる。

以上より，下線部ⓖのfly offは，父から離れることを暗に示しており，父の言葉または父そのものに対して不信感を抱き始めていることを意味しているとわかる。

（8） You wait and (see).「まあ，見ててごらん。」

○ wait and see = to be patient and find out what will happen later (perhaps before deciding to do something)

○ You wait and seeは「命令文」。

○通常，命令文では主語のyouは省略されるが，しかし，ここでは主語のyouが表層に残されている。

○ Youで始まる命令文は，

①「目の前に複数の相手が存在し，誰に向けられたかを明確にする場合」

②「いらだちを込めて相手を説得・非難・警告する場合」

③「指示」

であり，①，②の場合が大半であるが，ここでは自分の娘に対しての発話なので単に③「指示」ととる。

cf. *You* sing the melody and I will harmonize. → ①

（君はメロディーを歌いなさい。私がハーモニーをつけよう。）

Don't *you* be late again!（お前，二度と遅刻するなよ！）→ ②

You name the day.（あなたが曜日を決めて下さい。）→③

※ 英作文ではこの形を用いないこと。

（9）「**全訳**」下線部参照。

(10) **a** (Especially) since I left Ireland. →「アイルランドを離れてからは特にね。」

○ especially = more than other things, people, situation, etc.; particularly

b (Ever) since I left Ireland. →「アイルランドを離れてからずっとね。」

○ ever since ～ = all the time from ～ until now

※ everのシンボルはat any time。

d (Not) since I left Ireland. →「アイルランドを離れてからは覚えていないんだ。」

○ Notが否定詞・句・節・文の代用となるのは頻出。以下の例で研究を。

cf. "You can't blame him." "No, I suppose *not*."

(「彼を責めることはできないね。」「うん。できないと思うよ。」)

"Can I borrow your bike?" "Definitely *not*!"

(「自転車貸してもらえる？」「とんでもない！」)

"Do you miss your brother?" "No. *Not* really."

(「お兄さんがいなくてさびしいかい？」「それほどでもないよ。」)

"I'm not tired." "Why *not*?"

(「私は疲れてはいません。」「なぜ？」)

Not if I can help it.

（できることならそれをしないで済ませたいのですが。）

以上より，**a**，**b**，**d** は成立するが，**c** の Lately（= in the period of time up until now）では，意味が成立しない。

全訳

彼女は彼に「マクリーディ，あなたの誕生日には何をしたい？」と言った。彼女はいつで

も彼をマクリーディと呼んでいた。もう妻となってずいぶん長くなるのだから彼女は夫をジョンと呼び始めていて当然だと思っただろうが，彼女は決してそうはしないのであった。彼の方は彼女をヒルダと呼んだ。彼女は彼がまるで他人であるかのように，まるで彼がテレビで見たことのあるフットボール選手であるかのように，マクリーディと呼んだのだ。

「子供たちはどうしたいのだろうかね？」と彼は言った。

彼女はタバコに火をつけた。ⓑそれは彼女がその日曜日に吸った20本目か30本目のタバコであったが，彼は数えるのをすでにやめていた。

「子供たちのことは気にしないで，マクリーディ。あなたの誕生日よ。」と彼女は言った。

「アイルランドに帰ること。それが僕がしたいことだ。アイルランドに戻ってそれっきり帰らないことだ。」と彼は言った。

彼女はタバコを消した。いかにも彼女らしい，と彼は思った。いつだって，何においてもころころと気分が変わるんだ。「まともな返事を思いついたら教えてよ。」彼女は言った。

彼は，９歳になった娘のケイティが１人で遊んでいた庭に出て行った。ケイティと庭には何か共通点があった。どちらも小さくて，それに誰がどんなに努力しても，決して美しくならないかのように見えた。というのも，ケイティは父親に似たからだ。運が悪いことに。

その時，親子２人はまったく手入れされていない庭に一緒にいた。ロンドン北部の９月特有の暖かい日差しが降り注いでいた。マクリーディは彼が愛そうと懸命に努力している娘にこう言った。「じゃあ，ケイティ，パパのお誕生日には何をしようかね？」

彼女ははやりの派手な小さな人形と遊んでいた。彼女は人形のスラッとした脚をつかんでおり，人形の金色の髪の毛は旗のように揺れ動いていた。「わかんない。」彼女は言った。

彼がプラスチック製の庭椅子に座ると，彼女はニンフのような人形を並べて置いた。「シンディとバービーにとげが刺さっているの。」彼女は文句を言った。

「誰がとげを刺すのかな。」

「もちろんあの草よ。刈り取ってしまったらどう？」

「いや，それはだめだよ。ケイティ，ⓕあの雑草は切らずに残しているんだよ。」彼はヒルダが何年も前に植えたバラを押しのけ，雑草が猛烈な勢いで成長している場所を見ながら言った。

「どうして？」

「スープを作るためさ。イラクサスープだ。お前を美しくしてくれる。」

彼女は深刻な顔をして彼を見た。９年間，彼女は父が言うことならすべてを信じてきた。彼女は今，崖っぷちに立ち，今にも巣立とうとする一歩手前だった。

「ほんとに？」

「ああ，本当さ。まあ，そのうちにわかるよ。」

その日のあとになって，息子のマイケルが帰って来ると，マクリーディは彼が自分の部屋に上がっていく前に彼を呼び止めた。彼は13歳であった。

「私の誕生日にみんなで何をしようかってお母さんが考えていたよ。もしお前に何か考えがあったらだね…？」

マイケルは肩をすくめた。まるで彼は，自分が誰の手にも届かず，誰にも屈することのないことを知っているかのようであった。彼は未来そのものであった。ⓘ彼は現在を少しも気

にする必要はなかった。「いや。特にないよ。ところで，父さんはいくつなの？」彼は言った。
「45歳だ。いや，ひょっとするともう１つ上かもしれない。覚えていないんだよ。」
「まさか，父さん。誰だって自分の年は覚えているもんだよ。」
「それが覚えていないんだ。アイルランドを離れてからは特にね〔ずっとね；覚えていないんだ〕。その頃はわかっていたけど，ずっと昔のことだ。」
「じゃあ，ママに聞いてごらんよ。たぶん知ってるよ。」
マイケルは履いている臭い靴でカーペットの上を引きずるようにして階段を上っていった。何の意見もなし，何の考えもなし，特に何もなかった。
そしてマクリーディは再び，１人になった。

注

ℓ.1 ◇on your birthday：前置詞 onに注意。
◇McCreedy「マクリーディ」
※ McCreedyはfamily name。妻が夫に対してfamily nameを使うのは極めてまれ。

ℓ.2 ◇You would have thought by now
○ You「(一般的な）人」
◇would have thought：仮定法過去完了（過去の事柄に対する推測)。
※「If ＋過去完了形」または，それに代わる語句のある場合には，この構文は通常「…したのだったろう（が事実はそうではなかった)。」という過去の事実と反対の意味を含むが，単独でwould have doneとなっている場合は，①「事実はそうではなかったという裏の意味がある場合」と②「裏の意味がない場合」がある。本文のYou would have thought by nowはこの②の場合に当てはまる。盲点
cf. You *wouldn't have thought* I'd have survived him, would you?
（あなたは，私が彼よりも長生きをする，などとは思わなかったことでしょうね。）
※この例文の "'d have survived" は未来完了のwillが時制の一致で過去形になった用法。
He had just returned, so that he *would have had* no opportunity of reading it.
（彼はちょうど帰って来たばかりでしたから，それを読む機会はなかったでしょう。）
◇she should have started to call him John
○ should have done：実現されなかった義務・必要・勧告を示す。
○ John：男の名　　*cf.* Joan：女の名

ℓ.4 ◇stranger ＝ ① *a person whom one does not know*　② a person who does not know, or is not known in a particular place

ℓ.6 ◇What would the kids like?
○ would like (something) ＝ want (something)
○ kid ＝ ①（*informal*）*a child or young person*　② a young goat

ℓ.7 ◇light up ＝ ignite a cigarette, pipe, or cigar before smoking it
◇cigarette [sígərèt]《アクセント頻出》
◇（That〔It〕was）her twentieth or thirtieth（cigarette）that Sunday, ….
※文法的には上記のように補うことができるが，内容的には，He did not know if

that was her twentieth or thirtieth cigarette that Sunday because he had stopped counting. とパラフレイズできる。

○ that Sunday：副詞相当語句。前置詞が付かない点に注意。

ℓ. 9 ◇ never mind: used to tell someone that it is not important to do or consider something now, often because something else is more important

ℓ. 10 ◇（I'd like to）go back to Ireland.

※あえて補えば上記のようになるが，動詞の原形が「～すること」という名詞の意味をもっているということを知っていれば「アイルランドへ戻ること」と素直に読める。

○ Ireland = an island in northwestern Europe in the Atlantic Ocean, west of Great Britain, consisting of the Irish Republic and Northern Ireland.

◇（I'd like to）go back there for good.

○ for good = for good and all; permanently; forever

ℓ. 11 ◇ put out = ① inconvenience, upset, or annoy ② *make a fire, etc. stop burning*

※②の定義によりput out the cigaretteは「そのタバコを消した」となる。

◇ Typical, he thought. = That〔It〕is typical, he thought.

○ typical = characteristic of a particular person or thing

◇She was always changing her mind about everything, minute to minute.〔描出話法〕

≒ He thought she was always changing her mind about everything, minute to minute.

○描出話法は小説文では頻出する。

●描出話法とは

間接話法から伝達動詞を省き，文の構造・語順・音調は直接話法に準ずるものを描出話法（Represented Speech）と言う。

(a) 直接話法

On that cold evening he left the shop with a heavy heart. He said to himself. "I shall soon be penniless if I lose this job. Then my wife and children will starve. How can I bear it?"

(b) 間接話法

On that cold evening he left the shop with a heavy heart. He thought that he would soon be penniless if he lost that job, and then his wife and children would starve, and he asked himself how he could bear it.

(c) 描出話法

On that cold evening he left the shop with a heavy heart. He would soon be penniless if he lost that job, then his wife and children would starve. How could he bear it?

○ was always changing ～

○ alwaysを伴うことにより，動作がしばしば繰り返されることを強調し，感情的色彩（ここでは非難・困惑）を加えている。

○ change *one*'s mind ＝ change *one*'s decision, plan or opinion about something

○ minute to minute ≒ every minute or so

○下線部ⓓでマクリーディが考えている内容は，次のように表せる。

One minute she thinks one thing and the next minute she thinks another.

あるいは，

Every minute she changes her mind again.

ℓ. 12 ◇ When you've got ～

○「時・条件を表す副詞節では単純未来のwillは用いない」というルールより，you *will have got*という未来完了形がyou'*ve got*になっている。

◇ sensible ＝ reasonable; practical

ℓ. 14 ◇ go out into ＝ go into ＋ out

※ outと大ざっぱに言ってからintoと細かく言うのは英語の癖。

◇ his nine-year-old daughter, Katy「９歳になる娘ケイティ」

※ yearが単数形になっている点に注意。

◇ on *one*'s own ＝ ① *alone*　② without helping

※ on *one*'s ownを強めた形がall on *one*'s own

ℓ. 15 ◇ have ～ in common ＝ share

○ in common ＝ shared

◇ it looked as if they would never be beautiful

○ it looks as if …「…しそうにみえる；…しそうだ」

○ wouldは単純未来のwillの仮定法過去の形。これから美しくなるようには見えないのだからwouldは不可欠。

ℓ. 16 ◇ no matter how hard anyone tried「誰がいかに一生懸命試みても」

※ hardの位置に注意。

ℓ. 17 ◇ more's the pity ＝（informal）unfortunately

ℓ. 18 ◇ the two of them：of〔同格〕

◇ neglect ＝ fail to give proper care or attention to

◇ with <u>the North London September sun</u> <u>quite warm on them</u>

O　　C

ℓ. 20 ◇ then : used in conversation to indicate that what you are about to say follows logically in some way from what has just been said or implied

ℓ. 21 ◇

her showily stylish little dolls「彼女のはやりの派手な小さな人形」